



海と朝日の美保関学園

学園だより

< 第40号 >

～ 発行 ～

令和7年9月1日

美保関小・中学校

D語とY語

松江市立美保関小学校

校長

こどもたちと毎日接したり、児童が先生と会話をしている場面に出会ったりすると、少し気になる言葉が聞こえてくることがあります。例えば、

「だってあいつが先にやってきたから・・・」「どうせ私にはできないし・・・」
「でも悪いのはぼくだけじゃないし・・・」

こどもはいろいろな面をもっています。素直で優しい様子、積極的に活動する姿、友達と楽しく遊んでいる様子、少し不機嫌な様子、悲しそうにしている様子、そして家で見せる姿や学校で見せる姿等々。この姿があの子で、あの姿は違うということはありません。どの姿ももその子自身です。普段は明るい子なのに、なぜか今日は落ち込んでいたり、「学校ではとてもがんばっていると言われていたのですが、家では全く動いてくれないんですよ。」と、個人面談の時に保護者から言われたりすることもあります。もちろんこどもに限らず、人間だれしもそうした面があるのですが、大人とこどもの大きな違いは、こどもは日々変化する、成長するということです。以前は気になる言動が多かったのに、今ではほとんど見られない、少しずつ減ってきたという子は、小学校だけでも少なくありません。

こどもたちはいろいろな面をもっている、変化し続けているということを受け入れつつ、しかし、将来社会生活を営んでいく上で増やしていった方がいい姿、減らしていった方がいい姿や言動を様々な場で伝え続けていくのが教師の、そして大人の務めだと思っています。

上記した言葉は、「だって」、「どうせ」、「でも」の頭文字から「D語」といい、どちらかという後ろ向きな言葉です（もちろん自分の意見を相手に伝えるということも大切ですが、独りよがりな考えを主張し続け、相手の意見を受け入れようとしなないのは問題です）。

それに対してこれもその頭文字から「Y語」という言葉があります。それは例えば、

「よし!」「やるぞ!」「よっしゃあ!」「よろこんで!」

等々というように、前向きな表現の言葉です。これらの言葉は積極性や自主性を感じさせます。

私は、海と朝日の美保関学園のこどもたち全員が前向きな「Y語」をもっと言えるようになってほしいと思っています。後ろ向きな「D語」よりも「Y語」を増やせるよう、安心して全員が、やる気や思いやりのある言葉を言えるよう、地域の皆様にもご理解とご協力をいただきながら、小中の教職員一同で努力してまいりたいと思います。

今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。



地域学校協働本部より

地域学校コーディネーター

地域の皆さまには、日頃より地域学校協働本部の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

1学期の活動の様子を、一部ですがご紹介しますのでご覧ください。2学期以降も引き続き美保関学園のこどもたちのためにご協力いただきますようお願いいたします。



小学校
読み聞かせ



小学校
水泳授業の見守り



小学校
図書館整備



小3
美保関のすてきな人の話を聞こう



小5
田植え



中2



ミシンボランティア
(トートバッグ作り)



中3

ふるさと探究学習



中1,2



ふるさと学習
(太鼓・三味線)



中・生徒会

中庭の花植え



今年の梅雨は例年より短く、夏の到来がとても早く感じられました。夏の過ごし方もこの数十年で変化したように思いますが、こどもたちの元気な姿、元気な声は、変わらず地域や学園を彩っています。地域の日の活動や、美保関の各地区での校外学習を通して、たくさん思い出と、ふるさとへの心を育むことができました。

保護者・地域の皆様には日頃より様々な場面でご支援いただき、心より感謝申し上げます。今後ともこどもたちの教育活動に、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。